

情報構造と中国語教育 語順問題とその教授法について

Information Structure in Chinese Teaching Word Order Problems and Methods of Teaching

高 岩
GAO Yan

概要

日本の学生たちに初修外国語として中国語を教える際、いろんな難しい箇所がある。とりわけ、発音篇の四声と、文法篇の語順問題が挙げられる。本稿は中国語の情報構造やLi & Thompsonが提案した中国語の項の構造を踏まえ、学生たちにとって混乱しやすい例文および沈（2007）が取り上げた用例を検証し、学生たちにとっても教員にとっても分かりやすい教授法を提案したい。

キーワード：

〔語順〕 word order・〔情報構造〕 information structure

〔項構造〕 argument structure

〔旧情報/既知情報〕 known information

〔新情報/未知情報〕 unknown information

0. はじめに

中国語の授業では、日本人の学生たちは度々以下のような語順問題に悩まされている。

- | | | |
|-----|-------------------------------------|-----------------|
| (1) | a. Zhuo zi shang you yi ben shu. | テーブルの上に一冊の本がある。 |
| | 桌子上有一本书。 | |
| | b. Na ben shu zai zhuo zi shang. | その本はテーブルの上にある。 |
| | 那本书在桌子上。 | |
| (2) | a. Yan hui shang lai le shi ge ren. | 宴会には10人来了。 |
| | 宴会上来了十个人。 | |
| | b. Wo ba ba qu can jia yan hui le. | 私の父は宴会に参加した。 |
| | 我爸爸去参加宴会了。 | |

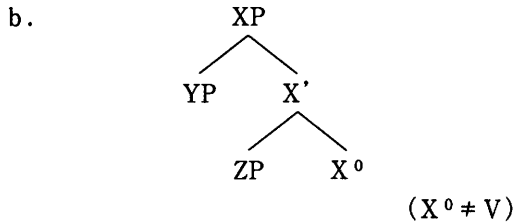
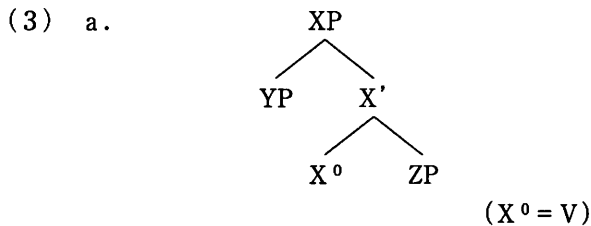
いったい、何がこのような語順の違いをもたらすのだろうか。

1. 語順に関する先行研究

中国語の語順問題は言語学者たちにとっても興味深いテーマである。学者たちは様々な理論を唱え、いろんなアプローチからこの問題を分析してきた。たとえば、James Huang (1982) はXバー理論によるアプローチ、James Tai (1985) は類像性によるアプローチ、Lin (2001) は存現事象と語順の関係、Dowty (1979) などは出現事象と語順の関係などを試みた。

1.1 Xバー理論によるアプローチ (James Huang: 1982)

X^0 がVであれば、head-initialであり、それ以外はhead-finalである。



Huangの構造に対し、沈 (2007) は $X^0 = V$ の場合だけ、主要部が先行する理由をもっとはっきりすべきであると指摘をしている。

1.2 類像性によるアプローチ (James Tai: 1985)

類像性とは記号が意味あるいは概念を（ある程度まで）直接的に反映すること。Taiはこの理論を中国語の語順問題に応用し、中国語の文法単位の連続は事象発生の時間順に従うと提案した。

- (4) a. Xia yu le. 雨が降った。
 下雨了。
 b. Yu ting le. 雨が止んだ。
 雨停了。

- (5) a. ?Yu xia le.
雨下了。
b. ?Ting yu le.
停雨了。

この仮説では、(4 a) と (4 b) の語順は外界の出来事の時間順に沿うものと考えられる。「雨が降る」という現象においては、まず「降る」という変化があって、その後「雨」という存在がやってくる。「雨が降る」に対して、「雨が止む」という現象は、先に「雨」という存在があり、それから「止む」という変化が現れる。

沈 (2007: 18) は「雨が降る」と同様な事象として、「火が出た」の場合は、2通りの語順が可能であると指摘する。

- (6) a. Zhao huo le. 火が出た。
着火了。
b. Huo zhao le. 火が出た。
火着了。

同じ事象にもかかわらず、(5) が不可能に対し、(6) は可能である。Taiの仮説ではこのような違いを説明できないと沈 (2007) は指摘する。

1.3 存現事象と出現事象

1.3.1 存現事象とその語順

存現事象とは、ある空間または時間にある出来事が存在することを指す。

存現事象の構造: [xEXIST[BECOME[yBE AT-z]]] (Lin: 2001)

a. EXISTは外項と各種の補文を取る述語である。

b. xは場所、時間である。

驚きより描写を表す。すなわち、述語EXISTが焦点化される。

- (7) a. Zuotian gua longjuanfeng le. 昨日竜巻が発生した。
昨天刮龙卷风了。
(6) b. Huo zhao le. 火が出た。
火着了。

1.3.2 出現事象とその語順

出現事象とは、ある事物が予期せずに出現することを指す。

出現事象の構造: [BECOME[y(not)BE AT-z]] (Dowty: 1979, Jackendoff 1990, 影山: 1996)

BECOMEは述語である。

描写より驚きを表す。すなわち、述語BECOMEが焦点化される。

- (8) a. Dongjing chu le yi qi renming an. 東京で殺人事件が起きた。
東京 出了 一起人命案。
- (6) a. Zhao huo le. 火が出た。
着火了。

驚きを表すか描写を表すか、話す側の出来事に対する捉え方次第である。(8 a)の場合は、いままで竜巻を経験したことがない人がそれを語る際、自然現象の描写とともに、初めて見た竜巻の驚きも考えられる。また、(6 a)の場合は、驚きが焦点化されるはずの殺人事件や火事でも、ニュースとして報道される際、驚きより叙述的で描写であると捉える方が妥当である。

存現事象と出現事象と語順の関係は、構造によってはっきりしている。しかし、この構造のことが詳しくない教師にとって応用し難い。また、初修外国語として中国語を勉強している学生たちにとっても、驚きか描写かの判断はかなり難しい。

本稿では、言葉の情報構造とLi & Thompson (1981) が提案した中国語の項の構造を踏まえ、例文を検討し、教授法を提案する。

2. 情報構造と項の構造と中国語の語順

2.1 情報構造

情報構造とは、文をメッセージとして伝えるとき、話し手は、聞き手がすでに知っている(と話し手が思っている)事柄(旧情報)と、相手がまだ知らない(と話し手が思っている)事柄(新情報)がどのような順序で配列するか工夫するはずである。情報が、「新、旧」に配列された構造を文の「情報構造」と言う。(安井：1987)

言語によって、旧情報と新情報の配列は違ってくる。中国語の情報構造に関しては、旧情報が新情報より先に来るのが一般的である。

- (1) b. Na ben shu zai zhao zi shang. その本はテーブルの上にある。
那本书在桌子上。
- (2) b. Wo ba ba qu can jia yan hui le. 私の父は宴会に参加した。
我爸爸去参加宴会了。

(1 b)と(2 b)は、「その本」と「私の父」は、話し手が聞き手がすでに知っているであろうと想定する事柄、すなわち、旧情報である。中国語の旧情報が新情報より先に来るという情報構造に従い、「その本」と「私の父」は文頭に位置し、この場合は文の主語になっている。

- (1) a. Zhuo zi shang you yi ben shu. テーブルの上に一冊の本がある。
桌子上有一本书。
- (2) a. Yan hui shang lai le shi ge ren. 宴会には10人来了。
宴会上来了十个人。

(1 a) と (2 a) では、「テーブル」と「宴会」は、話し手が聞き手がすでに知っている
と想定する「あのテーブル」と「あの宴会」の事であり、旧情報である。文頭に現れている
「テーブル」や「宴会」に対し、「一冊の本」や「十人」が具体的にどの本や誰らの十人がおそ
らく聞き手が知らないと思われる事柄で、新情報である。情報構造により、旧情報の「テー
ブル」と「宴会」の後に現れることになる。

2.2 Li & Thompson (1981) が提案した中国語の項の構造

中国語の未知の情報を導入する際、外項 (x) は既知の情報でなければならない。すなわち、
中国語においては既知の情報が文頭に来る傾向がある。

- (9) a. Mao zai huayuan li. 猫が庭にいる。
 猫 在 花园 里。
 b. *Yi zhi mao zai huayuan li. 一匹の猫が庭にいる。
 一只猫 在 花园 里。
- (10) a. Pingguo yijing chiliao le. リンゴを食べ終えた。
 苹果 已经 吃了 了。
 b. *Yi ge pingguo yijing chiliao le. 一つのリンゴを食べ終えた。
 一个 苹果 已经 吃了 了。

(9 a) の「猫」と (10 a) の「リンゴ」は話し手が聞き手がすでに知っている
と想定する「あの猫」と「あのリンゴ」という既知情報である。ゆえに、文頭に置き、外項になりうる。
しかし、例文 b の「一匹の猫」と b 「一つのリンゴ」は不特定の事柄であり、聞き手もはっき
り分からない未知の情報である。したがって、文頭に現れず、外項にもなれない。

2.3 疑問

情報構造と Li & Thompson (1981) の原則に共通する部分がある。すなわち、中国語は旧情
報また既知情報が先行する言語である。しかし、旧情報と新情報の区別だけで、説明がつか
ない文も沢山存在する。たとえば、(4) - (6) の違い。このような問題はどのように説明可
能だろう。本稿では、これらの理論を踏まえ、分析方法を提案する。

- (4) a. Xia yu le. 雨が降った。
 下雨了。
 b. Yu ting le. 雨が止んだ。
 雨停了。
- (5) a. *Yu xia le.
 雨下了。

- b. *Ting yu le.
停雨了。

- (6) a. Zhao huo le. 火が出た。
着火了。
b. Huo zhao le. 火が出た。
火着了。

3. 分析

情報構造とLi &Thompson (1981) が提案した中国語の項構造によると、中国語には旧情報また既知情報は新情報また未知情報より文頭に現れる傾向がある。本章では、旧情報と新情報の違いを活かし、主語になれる潜在的な旧情報を導入、「あり」という新情報を導入する述語を導入する二つの方法で分析を行う。

3.1 主語になれる潜在的な旧情報の導入方法

潜在的な旧情報を導入できるかどうかによって、文構造の違いを明らかにし、語順の変化が可能かどうかを説明していく。

- (4) a. Xia yu le. 雨が降った。
下雨了。
b. Yu ting le. 雨が止んだ。
雨停了。

潜在的な旧情報として「外」を導入してみる。

- (11) a'. (Wai mian) xia yu le. 外は雨が降った。
(外面) 下雨了。
b'. (Wai mian de) yu ting le. 外の雨が止んだ。
外面的雨停了。
b''. ?(Wai mian) yu ting le.
(外面) 雨停了。
b'''. (Wai mian), yu ting le. 外, 雨が止んだ。
(外面), 雨停了。

(11 a') には潜在的な旧情報「外」を導入できるのは、「下」というのは述語であり、この文の主語であるはずの旧情報「外」は潜在的だったからである。一方、(11 b') には文の主語の「雨」がもともと存在するため、主語にもなりえる旧情報「外」を導入する(11 b'')ではなく、「雨」という主語を修飾的な「外の」を導入することになる。ちなみに、(11 b''') には、旧情

報「外」は、文の主語ではなく、文の主題であり、文頭に現れることは文脈的に可能である。したがって、潜在的な旧情報、すなわち、主語が導入することができるかどうかによって、例文の構造的な違いがより明らかになる。

また、以下の例文がなぜ解釈不可なのかも説明がつく。

- (5) a". ?Yu xia le.
雨下了。
b". ?Ting yu le.
停雨了。

二つの例文とも、旧情報の主語、述語という中国語の語順に反するからと考えられる。同様に、以下の例文も分析できる。

- (6) a. Zhao huo le. 火が出た。
着火了。
b. Huo zhao le. 火が出た。
火着了。

潜在的な旧情報を加える場合は、(12) となる。

- (12) a. (Naer) zhao huo le.
那儿着火火了。
b. *(Naer) huo zhao le.
那儿火着了。
a'. *(Luzide) zhao huo le.
炉子的 着火火了。
b'. (Luzide) huo zhao le.
炉子的 火着了。

(12 a) には「あそこ」という潜在的主語を足すことが可能である。しかし、(12 b) にはすでに「火」という主語が存在するため、「あそこ」という主語を足すことが不可能である。また、二つの例文には「ストーブの」という修飾的な成分に対する受け入れ方も違いをみせている。当然、「ストーブの」は述語「出る」に修飾できず、「火」という名詞に修飾することになる。

このような語順問題は、主語になれる潜在的旧情報を足せるか、それとも修飾的な旧情報を足せるかによって、構造的な違いと意味的な違いをもっとはっきりわかるはずである。

さらに、この方法で「自分自身」によって変化を起こせるかどうかともよりわかりやすくなる。

3.2 自分自身による変化

中国語では、自分自身による変化の表現の一つとして、「自己就」がある。この表現が使えるかどうか、どこに入れるべきかといった使い方に戸惑う学生も多いようである。

本稿では旧情報を足す方法で、なぜある文にはこのような自分自身による変化を起こせるか、ある文にはこのような変化を起こせないかを明らかにする。

- (13) a. Si ren le. 人が死んだ。
死人了。
b. Xiao Li si le. 李さんが死んだ。
小李死了。
a'. (Naer) si ren le. あそこに人が死んだ。
那儿死人了。
b'. *(Naer) xiao Li si le. 那儿死小李了。
a''. *(Naer) zi ji jiu si ren le. 那儿自己就死了。
b''. Xiao Li zi ji jiu na me si le. 誰にも知られずに、李さん一人で死んだ。
小李自己就死了。

(13 a) には主語になれる潜在的旧情報「あそこ」を足すと、(13 a') となる。(13 a') に自分自身による変化をさせると、(13 a'') のように「あそこ自分人が死んでしまった」という非文になる。一方、例文 (13 b) には「李さん」という主語がすでに存在しており、さらに主語になれる旧情報「あそこ」は必要としない。このような (13 a) の例文に自分自身による変化をさせると、(13 b'') のようになる。

主語になれる潜在的旧情報を加える方法で、自分自身による変化を起こせるかどうかのテストにも一定の効果があると認められる。

3.3 「あり」という述語を導入する方法

Li & Thompson (1981) も提案したように、「あり」という述語を導入することで、(9 b) のような未知の情報が先行する非文が解消される。

- (9) b. *Yi zhi mao zai huayuan li. 一匹の猫が庭にいる。
一只猫 在 花园 里。
b'. You yizhi mao zai huayuan li. 一匹の猫が庭にいる。
有一只猫在花园里。

ここでは、(9 b) の「一匹の猫」は未知の情報のため、外項になれない。ゆえに、この文は非文である。(9 b') の「あり」は未知の情報を導入する述語である。そうすることにより、

研究していきたい。

参考文献

- Dowty, David (1979) *Word meaning and Montague grammar*. Dordrecht: Reidel.
- Huang, C.-T. James (1982) *Logical Relations in Chinese and the Theory of Grammar*.
PhD dissertation, MIT.
- 岩田憲幸 (2001)『暗誦して学ぶ中国語 [初級篇]』白帝社
- Jackendoff, Ray (1990) *Semantic Structures*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- 影山太郎 (1996)『動詞意味論』くろしお出版社
- Li, C. and S.A. Thompson (1981) *Mandarin Chinese—A Functional Reference Grammar*.
University of California Press.
- Lin, Tzong-Hong (2001) *Light verb syntax and the theory of phrase structure*. Doctoral
Dissertation, University of California, Irvine.
- Li, Y.-H. Audrey (1990) *Word order and constituency in Mandarin Chinese*. Kluwer
Academic Publishers.
- 沈力 (2007)「中国語の語順と事象構造」
<http://www1.doshisha.ac.jp/~cjitl210/data1/09-shenli.pdf>
- Tai, James H.-Y. (1985) 'Temporal sequence and Chinese word order'. John Haiman (ed.),
Iconicity in Syntax, 49-72. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- Thompson, Sandra A. (1978) 'Modern English from a Typological Point of View: Some
Implications of the Function of Word Order'. *Linguistische Berichte* 54: 19-35.